

はじめに

第1 京都府外来生物被害実態調査の概要

1 調査趣旨

海外や国内の他地域から持ち込まれてきた外来生物は、生態系への被害、人身被害、農作物等への被害が危惧されており、早期発見、早期対策が不可欠である。

既に府内でもアライグマやジャンボタニシなど、大きな被害が起こっているものも多く見られるにも関わらず、その全容は全く把握できていない。

このため、府内に侵入し定着している国外及び国内外来生物について、その種類、分布状況、被害状況を把握して「京都府外来生物データブック」を作成するとともに、その総合的な対策を検討するためのデータとして活用することを目的に調査を行った。

2 調査内容

(1) **対象分野** 本調査の対象とする分野は、野生動物・植物・菌類とした。

- 1 ほ乳類、2 鳥類、3 は虫類、4 両生類、5 淡水魚類、6 昆虫類、
- 7 クモ類、8 陸産・淡水産貝類、9 その他の淡水産無脊椎動物、
- 10 海産生物、11 コケ植物、13 シダ植物、14 種子植物、
- 15 菌類【担子菌類、子のう菌類】、16 その他

(2) **対象範囲** 本調査の対象とする範囲は、原則として次の各項目に該当する外来生物とした。

- 1 府内の自然環境などへの侵入や導入が確認又は予測される外来生物（「予測」とは、近隣府県への導入がみられ、近年分布が拡大しているなど、府内への侵入の可能性が高い外来生物）
- 2 陸産、淡水産及び海岸域の外来生物とし、純海産のものは除いた。
- 3 海外からの外来生物だけでなく、国内や府内の他地域から人為的（意図的、非意図的は問わない）に導入されたものも含めた。
- 4 導入後、その地で繁殖しているものだけでなく、導入された個体が単年度で死ぬことなく長期に渡って生存しつづけているものも含めた。
- 5 外国との交流が盛んになる明治時代以降に国内に入ってきたと推定される外来生物としたが、それ以前に国内導入された外来生物であっても、近年、特に急増するなど府内の環境に大きな影響を与えている外来生物については特に含めた。

(3) **対象地域** 本調査の対象とする地域は、京都府全域とした。

府内の地域区分

北部地域	丹後地域	宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町
	中丹地域	福知山市、舞鶴市、綾部市
中部地域		亀岡市、南丹市、京丹波町
南部地域	京都市・乙訓地域	京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
	山城中部地域	宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町、宇治田原町
	相楽地域	木津川市、笠置町、和束町、精華町、南山城村

3 調査体制

京都府外来生物被害実態調査を実施するに当たっては、調査の総合的な方針や内容などの検討、分類群間の相互調整などを行うため、外来生物実態調査専門委員会を設置し、10名の委員で構成した。

なお、委員会の検討結果に基づき、対象となる外来生物について被害状況を調査し、確認リストの作成やランク付けなどを行うため、委員会の下に9分野の分野別小委員会を設けた。

◎委員名簿

氏名	所属	担当分野
村上 興正	同志社大学工学研究科 嘱託講師	哺乳類 ◎座長
須川 恒	龍谷大学非常勤講師	鳥類
松井 正文	京都大学大学院人間・環境学研究科教授	は虫類、両生類
細谷 和海	近畿大学農学部水産学科教授	淡水魚類
近藤 高貴	大阪教育大学教育学部教授	陸産・淡水産貝類
吉安 裕	京都府立大学農学部教授	昆虫類、クモ類
竹門 康弘	京都大学防災研究所助教授	淡水産無脊椎動物
岩崎 敬二	奈良大学教養学部	海産生物
光田 重幸	同志社大学理工学研究科助教授	植物、菌類
津軽 俊介	大本花明山植物園長	

- ・事務局 京都府企画環境部自然・環境保全室
- ・オブザーバー 京都府保健福祉部生活衛生室、動物愛護管理室、農林水産部森林保全課、水産課、農産流通課、土木建築部治水総括室、保健環境研究所

4 調査方法

本調査は、平成17～19年度までの3箇年をかけて実施した。

調査に当たっては、まず外来生物実態調査専門委員会が調査全般の基本的な方針を定めるとともに、調査計画などの検討を行った。委員会は、調査期間を通じて計10回開催し、調査の進捗状況に応じて、調査方針の決定、評価基準の策定、掲載内容の検討などを順次行うほか、各分野間の相互調整を行った。

また、委員会の下部組織として設けた分野別小委員会では、調査方針や方法を検討し、文献や標本、現地調査などにより実施した。

さらに、広く府民からの情報を収集するため、京都府のホームページなどを通じて、府民からの目撃情報を募集し、提供のあったは発見情報については適宜結果に反映させた。

第2 京都府外来生物データブック

1 選定方法

京都府外来生物データブックでは、府内における外来生物による被害の状況と対策の緊急度から選定基準（外来生物カテゴリー）を設けた。

（被害とは、生態系被害、農林水産業被害、人身・健康被害、生活被害など）

2 選定基準（外来生物カテゴリー）

種別	内容
被害甚大種	京都府内における被害が大きく、又は大きくなる可能性が強く緊急に対策が必要な外来生物
被害危惧種	京都府内における被害があり、又は被害が生じる可能性が強く対策が必要な外来生物
準被害危惧種	京都府内において今後被害が起こる可能性があり、対策を検討する必要がある外来生物
要注目種	京都府内において今後の動向を注目すべき外来生物
情報不足種	情報が不足している外来生物

府内における影響度と確認・定着状況（タイプ）

		影響度			
		大（A）	中（B）	小（C）	不明（D）
確認種	定着（a）	A a	B a	C a	D a
	不明（b）	A b	B b	C b	D b
	未定着（c）	A c	B c	C c	D c
未確認種（d）		A d	B d	C d	D d

（定義）

◎確認種：府内の自然環境で生存が確認されている種

- 定着（a）：府内での繁殖もしくは複数年に渡る生存が確認されている種
- 不明（b）：府内での生存は確認されているが、繁殖もしくは複数年に渡って生存しているかどうか不明な種
- 未定着（c）：府内での生存は確認されているが、繁殖もしくは複数年に渡っての生存はしていない種

◎未確認種（d）：現時点で府内での生存は確認されていないが、近隣府県からの分布拡大や全国的に急速に分布を広げている種、導入された場合に予測される被害が甚大である種など、府内において今後の動向を注目しておく必要がある種

◎影響度：府内に導入された（される）ことによる影響の度合い。

（影響とは、上位捕食者、植生への影響、競合・駆逐、交雑による遺伝子かく乱、在来種への病気・寄生虫の媒介、土壌・環境攪乱など）

- 大 A 府内での影響の範囲や規模が甚大であるもので、回復が困難なもの
- 中 B 府内での影響の範囲や規模が中程度であるもの
- 小 C 府内での影響が見られるが、範囲や規模がわずかであるもの
- 不明 D 府内での影響の範囲や規模に関するデータが少なく影響に関する実態が不明なもの

3 選定結果（選定種の概要）

(1) 京都府外来生物リスト一覧

(2) 京都府外来生物リスト

4 掲載内容（凡例）

分類群ごとの掲載種等の解説は、原則として以下の項目とした。なお、項目について、該当事項のない場合や情報不足等の理由により記載できない場合は省略した。また、掲載種によっては、下記の内容を要約して「概要」としたり、まとめて記載したものもある。

掲載項目	解説	
① 基礎データ	種名	標準和名を記載した。異名については主なものを（ ）に記載した。
	学名	原則として、動物および菌類は属名、種小名、命名者名とし、植物は属名、種小名までとしたが、各分類群ごとの慣例に従って、表記方法などは分野ごとに統一した。また、文献によって学名が複数ある種については、主なものを複数記載した。
	目科名	動物は目名及び科名を、植物は科名を記載した。
	カテゴリー	「被害状況」と「対策の緊急度」から選定基準（外来生物カテゴリー）を設けて記載した。
	タイプ	府内における外来生物について、影響や確認・定着状況の大きさからタイプ分けを行って記載した。
	原産地	その種が本来生息生育している国名を記載した。
	導入年代	国内に導入された年代や時代を記載した。府内の導入時期がわかるものについては（府内）として記載した。
	導入原因	府内に導入された主な原因を記載した。
②分布範囲	全国の主な分布範囲と府内の分布区域について記載した。	
③選定理由	対象種として選定された主な理由について、被害対象、影響内容、性質特性、被害程度を記載した。	
④生態的特性	種の生態的特性について記載した。	
⑤近似種との見分け方	近似種が国内に導入されている場合や可能性がある場合などは、その形態的な区別点について記載した。	
⑥被害状況	府内における被害の状況や特徴などについて記載した。	
⑦必要な防除対策	府内における被害からの回復を図るために必要な主な防除対策を記載した。	
⑧参考文献	掲載種ごとの参考文献を記載した。 なお、本文文献欄には「著者名（発行年）」のみを記載し、分類群ごとの文献一覧に、「文献番号、著者、発行年、タイトル、書名、出版元、巻（号）、頁」など詳細を、著者名のABC順に記載した。	
⑨特記事項	上記以外で特に記すべき事項について記載した	
（執筆者）	掲載種の執筆者名を記載した。	
分布図	現在までに確認されている分布域を表示した。分類群により表示方法が異なるものについては、凡例を記載した。	
写真	標本又は生体写真を表示した。	